

柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌
 住所: 川崎市麻生区上麻生 6-40-1
 柿生中学校内
 電話: 044-988-0004(柿生中学校)
<http://www.kakio-kyodo.com>
 第73号

農具から農機具へ！農業の大変革 郷土の大発明家“細王舎”の偉業

18世紀にイギリスで産業革命が始まり、世界の“ものづくり”が一変しました。一方、日本では、江戸時代に基幹産業であった農業生産の一大変革がなされ、多くの農具が発明されました。例えば、深耕できる備中鍬(びっちゅうぐわ)、脱穀の千歯扱き、穀粒の選別に唐箕(とうみ)などが発明され、生産性も大いに向上しました。



細王舎の記念碑

さらに、近・現代では、細王舎の数々の発明があります。小田急読売ランド駅の近く世田谷街道の高石歩道橋傍にガソリンスタンドがありますが、そこそが、誇るべき日本の農業技術の大変革を実現した細王舎の工場があった所です。交差点の角には「農機具之元祖細王舎創業之碑」と書かれた石碑が建っています。明治21年、細山の箕輪(みのわ)政次郎氏が地元「細山」の“細”と妻の出身地「王禅寺」の“王”を取って「細王舎」を設立しました。始めは主に養蚕器具の改良からスタートし、「座繰(ざぐり)」



足踏み脱穀機体験の中学生



座繰り

り)「足踏式糸繰機」の発明など、糸繰りの能率化に貢献しました。さらに「製筵機(せいえんき=ムシロを作る機械)」「藁打機(わらうちき)」「製縄機」など様々な農業器具の発明にも尽力しました。大正10年には、従来の「千歯扱き」に替わり、「ミノル式足踏脱穀機」を発明して脱穀作業の大幅効率化に成功し、全国にその名を轟かせました。太平洋戦争終了後の昭和28年にはアメリカのメリー・テラー社と技術提携し、耕耘機(こううんき=荷物の運搬や耕作などの多用途機械)を販売し、爆発的な人気を得ることが出来ました。



ミノル式足踏脱穀機

柿生郷土史料館支援委員会委員長に 王禅寺東の原慶應氏が就任いたしました

第2代委員長の久保倉良三氏が4月をもって勇退し、後任に王禅寺東の原慶應氏が就任いたしました。原氏は柿生中学校の18期生で昨年度まで柿中の同窓会長を務めておりました。前任同様よろしくお願い申し上げます。



しかし、昭和30年代、テレビの天気予報でもお馴染みだった大手メーカーのヤンマーディーゼル社等の動力農業機器メーカー等に押され、昭和35年小松製作所と業務提携し、社名は「小松部品」となり、細王舎の精神は細々と受け継がれるのみとなってしまいました。

細王舎の機械はアジア各地でも知られ、現在でも東南アジアで使用されており、特に動力が手に入りにくい地域では、大変重宝されているようです。

今日、世界的にも使用されている小型農業機械の発明と進歩は、まさに麻生区の細王舎から発信されたと言っても過言ではなく、わが地域の誇りとするとところでもあります。(文:板倉)

参加者募集！ 柿生郷土史料館 “秋の歴史の旅”～三浦半島の史跡を訪ねて

行程 : 観音崎公園→浦賀(東西叶神社)→久里浜(ペリー公園、走水神社など)→横須賀三笠公園(三笠見学)→どぶ板通り(ショッピング)→夏島貝塚・貝山緑地(車窓見学)等をバスで巡ります。
 昼食は久里浜フェリーターミナルにて海鮮松花堂弁当をお楽しみいただきます。

開催日 : 2014年9月18日(木)

集合 : 午前7時15分 小田急線柿生駅南口 解散: 午後6時30分頃(柿生駅→新百合ヶ丘駅)

募集 : 45名(先着順、定員になり次第締め切ります)

参加費 : 7000円(お支払い方法につきましては返信はがきにてお知らせいたします。)

申込み : 7月31日までに往復はがきに必要事項(代表者の郵便番号・住所・氏名・年齢・連絡先電話番号、参加者全員の氏名・年齢)を記入の上、柿生郷土史料館宛(住所は本ページトップ参照)お送りください。

問合せ : 担当 小林基男 (電話 044-989-0622、080-5513-5154)

シリーズ

「麻生の歴史を探る」第43話

麻生の古道(4) 高石の古道

小島 一也 (柿生郷土史料館相談役)

弘法松公園には今でも富士浅間を祀った“浅間の森”がわずかに残っています。高石には“森”と名付けられた地が多く、浅間の森・八幡の森・春日の森・お伊勢の森・権現の森・稲荷森などがそれで、それぞれが由緒を持ち、そこには里道が集まっていたようです。

明治14年版の地図を見ると、この弘法松(浅間森)からの道筋は、八幡の森へ向かう尾根道(東進)と春日の森(百合丘小西に在りましたが現在面影なし)方面へ降りる道が太線で示され、里道と思われる点線が記されています。

この八幡の森への稜線は多摩川と鶴見川の分水嶺で、そこに真福寺側から稜線に登る真禅坂と呼ぶ急坂(現三井第一住宅)がありました。義経・弁慶の「鍋ころがし」(写真右上)の逸話はこの辺のことで、いかに谷が深かったかを物語っています。八幡の森はその昔、源氏の氏神八幡社の社祠が在った(武蔵国風土記)と伝えられるところで、その海拔は



約120mと、この界限では最も高く、品川沖の船帆が見えたほどです。前記の地図には、ここで亀井城跡からの尾根道と早野・王禅寺からの尾根道の交差が示され、亀井からの道(枡形道)は塔の越の尾根(原店)を生田に向かい、一方早野からの尾根道はこの地を横断、お伊勢の森(高石神社)方面へ尾根を降りています。



八幡の森からお伊勢の森への道筋は、三谷(現高石4丁目)を経て石神(3丁目石神社が在った)への道があったようです。義経・弁慶の二枚橋(写真左上)の伝承は、この石神から菅の寿福寺へ向かう途中、朽ちかけた幅6尺ほどの橋を補強、二重にしたのでその名が付いたとされています。この道は細山、読売ランドを縦断し

て矢野口に至りますが、菅の寿福寺には、寺宝大般若経600巻の中に義経・弁慶の書写が納められているそうです。

お伊勢の森(海拔約118m・写真右下)は、往古伊勢宮があったことからその名がついたといわれ、ここには幾筋かの里道が集まります。地元では鎌倉道があったと伝承されますが、その主な道筋は、万福寺に近い権現の森(熊野社)から細山(西部)を経て稲城長沼へ、前記石神への尾根道、そして細山秋葉社、神明社を経て矢野口へ向かう道、があったようです。



一方弘法松から春日森(現百合丘小西)に向かった道は、高石・万福寺境の追分から権現森を経て稲城長沼、百村の妙見宮(天平宝字4(760)年の古社)に至っており、この道も鎌倉道と伝承されます。古老の話では権現森は通称権現様と呼ばれ、その祭神は鎧兜に身を固め、白馬にまたがった武者姿であったそうです。前稿笹子姫伝承の法雲寺に近く、お伊勢の森とは尾根道で結ばれるこの地は、もともと高石が稲毛三郎の小沢郷の本拠地であったことからして鎌倉有縁の里道が縦横にあったのではないのでしょうか。

麻生区役所周辺を前記明治14年版の地図で見ると、春日森より現万福寺檜山公園を経て、十二神社付近で太線(津久井道)に交差し、細山に向かう細線(笹子農道:現新百合山手中央通)と、麻生警察署北の地点から万福寺・古沢の境を金程の尾根に登る坂道(写真左下)があります。この坂道は平成9年、万福寺土地区画整理事業の際、“鎌倉時代の軍道”ではと物議をかもしたことがあり、事業がストップ、再調査の結果その遺跡はなく、現在この道は“古沢こもれびの杜緑地”として、所と名を変え保存されています。



参考資料:「ふるさとを語る(柿生郷土史刊行会)」「人・緑・文化(万福寺土地区画整理事業記念誌)」「歩け歩こう麻生の里(麻生老人クラブ連合会)」

シリーズ 黒船来航

開国秘話 (9)

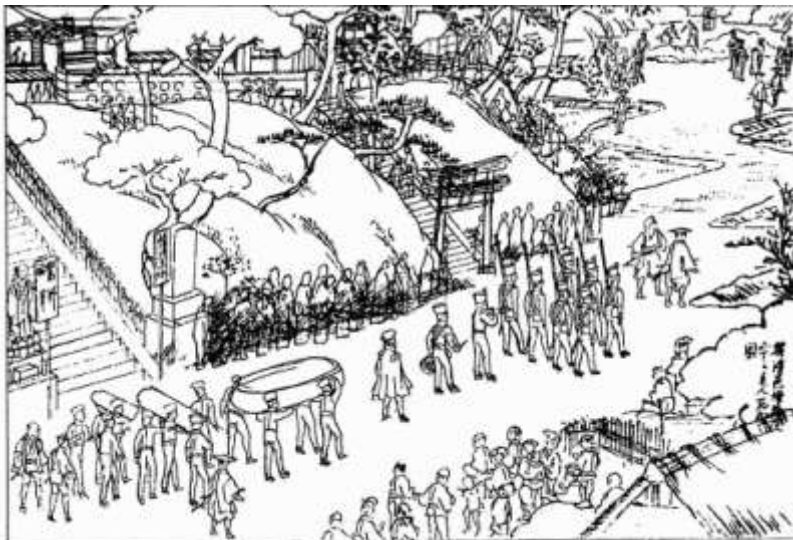
小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

◆日米交渉の開始◆

条約案とタイトルの不一致という米国側の大きなミスは、何故生じたのでしょうか。ペリーは、自ら構想した平和と親睦に限定した条約を、日本政府＝徳川幕府と結ぶつもりでしたから、その原則に則って、望厦条約の本文から、不要な条文を削除させたのです。ところがペリーは勿論、中国語の担当官兼通訳であったウィリアムズと羅森も、タイトルまで含めて訂正する必要があったことを、すっかり失念してしまったのです。これは重大なミスでした。

この矛盾を把握したことで、条約交渉では日本側が圧倒的に優位に立ちました。応接掛は、時に応じて交渉を進めてみたり、米側草案の矛盾点を細かく追及して、時間稼ぎをしたりと、緩急自在に条約交渉の進捗状況を操ることが出来たのです。ペリー側は明らかに劣勢でした。漢文を理解する人数の問題だけではなく、条約内容の一字一句の解釈や分析についても、幕府の揃えた精鋭の方が、はるかに優れていたのです。

自身の失策にペリーは焦りを感じました。それでも交渉に応じる日本側の姿勢に疑う余地はありませんでした。3月8日の最初の交渉の席で、ペリーはミシシッピー号のマストから転落して死亡したロバート・ウィリアムズ水兵(当時 24 歳)の日本での埋葬を幕府に要請しました。遠い異国の地で、不慮の死を遂げた若者に深く同情した幕府側は、「出来れば海の見える高台に…」というペリー側の希望も聞き入れ、横浜村山手の真言宗の名刹増徳院の境内墓地に、日本側も参列して手厚く葬る措置を講じました(これが現在の外人墓地の起源です)。ペリー一行は、この措置に感謝し、幕府側も交渉をまとめる積りであることを感じとっていたのです。



ウィリアムズの葬儀 樋畑雪湖編『米国使節彼理提督来朝図会』より

◆米国側の交渉作戦◆

後に日米和親条約と呼ばれるようになる条約が、日米両政府の代表によって締結されたのは、3月31日のことです。米側が条約の草案を日本側に手渡した3月8日から数えて、23日後のことでした。この間は、口頭での交渉が多く、文書の交換は少なかったため、関係文書はあまり残っていないのですが、気の抜けない駆け引きが続いたものと、思われます。

日本側に押されに押されていたペリーは、これではいけないとばかりに、日本側への招待作戦と、プレゼント攻勢に訴えて、局面の打開を図ろうとしました。



機関車模型の走行と電信機の使用実験

『ペリー艦隊日本遠征記』より

3月半ばのことです。ペリー側は、日本側への土産として用意した、蒸気機関車の実物の4分の1模型を陸揚げして、2km程のレールを敷き、石炭も焚いて実際に走らせてみたいと提案しました。近代文明の粋を見せることで、停滞する条約交渉の局面を打開したいと考えたのです。この作戦は、図に当たりました。贈呈式に立ち会った幕府の役人の中には、2kmのレールの上を、黒煙を上げながら走る機関車に驚嘆の声をあげ、なかには機関車に跨ってはしゃぐ番士も出る騒ぎとなりました。

米国側の用意したプレゼントは、これだけではありませんでした。オランダ経由で話が伝わり、さらに黒船という名の蒸気船を眼にしていた幕府側が、蒸気機関車以上に目を丸くして驚いたのは、見えない距離間での交信を可能にした、電信機の実物でした。

こちらは、蒸気機関車と違って、実物を運び込むのが可能だったのです。ペリーは近代文明の粋を日本側に見せることで、国を開いて欧米の文明を受け入れることの重要性を、日本側に認識させようとしたのです。

この作戦は成功しました。既に鎖国政策の転換を決意していた幕府は、交渉を不調のまま終らせる積りは、元々なかったのですが、以後の交渉は、ペリーの狙い通り大きくスピードを上げることとなったのです。(続)

柿生郷土史料館開館日のご案内

◎開館日：偶数月は毎土曜日、奇数月は毎日曜日

6月 7・14・21・28日(毎土曜日)

7月 6・13・20・27日(毎日曜日)

◎開館時間：午前10時～午後3時

柿生郷土史料館6～7月の催物ご案内 (入場無料)

第7回 実物のミニ歴史資料展

明治6年 太陽暦に替わった日

展示品：「明治5年 太陰暦」「明治6年 太陽暦」「江戸期 伊勢暦」「改暦辨 (福沢諭吉著)」 他



明治5年の太陰暦(左)と同6年の太陽暦案内書「改暦辨」

期間：4月26日(土)～9月14日(日)

(開館日：6、8月⇒8/31除く土曜日；7、9月⇒日曜日)

内容：明治5年12月3日を明治6年1月1日とした太陽暦への改暦の意味を考えます。

第47回 カルチャーセミナー

欧米人も驚いた和式測量技術 (仮題)

～日本全図作成の伊能忠敬の驚きの測量技術を解き明かす～

講師：君川静夫氏 (立正大学講師)

日時：7月27日(日) 13時30分～15時30分

会場：柿生郷土史料館特別展示室

内容：・日本古来の測量技術を解明する
・伊能忠敬の業績とその足跡を辿る



伊能忠敬

夏休みジュニアカルチャーセミナー

郷土の歴史探検 ～中世の柿生と亀井城跡～

日時：8月7日(木) 13:00～16:30

対象：小学生(4年生以上)～中学生 (小学生は保護者同伴でも可)

定員：30名 (申し込み多数の場合は抽選)

締切：7月1日(消印有効)

集合：柿生郷土史料館 13:00 (始めに館内で見学地の説明をします)

申込方法：往復はがきに「郷土の歴史探検申込」と記入の上、学校名・学年・住所・氏名・電話番号・同伴される場合は同伴者名を明記して下記宛お送りください。

宛先 〒215-0021 川崎市麻生区上麻生6-40-1 柿生中学校内 柿生郷土史料館

参加費：100円(保険代として当日徴収しますので、同伴の方からも頂きます)

その他：軽いハイキングスタイルでご参加ください(水筒、帽子、タオル、はき慣れた靴など)

お問合せ：090-4431-9778 板倉支援委員